

外国人労働者の幸福度: 台湾人のケース

蕭 涵文^a 佐々木俊一郎^b

要約

本研究では、アンケート調査を実施して外国人労働者の幸福度の決定因について検証した。分析結果によると、健康状態が良い人、特定活動ビザを保有している人、年収が高い人、宗教を熱心に信仰している人、今後母国に帰国の予定がない人は幸福度が高いことが分かった。

JEL 分類番号: I31, J61, J15

キーワード: 幸福度, 外国人労働者, アンケート調査

1. イントロダクション

日本における在留外国人は 2008 年のリーマンショックと 2011 年の東日本大震災後にかけて一時減少傾向にあったがその後は年々増加している。2020 年には 172 万人となり、過去最高を更新した。国籍別で見ると、ベトナムが最も多く 443998 人で、次いで中国が 419431 人(24.3%), フィリピンが 184750 人(10.7%)の順となっている(厚生労働省, 2020)。日本の労働人口の減少に伴って、今後も日本で就労する外国人の増加は今後も継続すると考えられる。将来にわたって多くの外国人労働者を受け入れるであろう日本にとって、外国人労働者が日本での就労や生活にどの程度満足しているかについて把握することは重要であると考えられる。そこで本研究では、日本の外国人労働者を対象にアンケート調査を実施して、外国人労働者の幸福度の決定要因について分析する。

2. アンケート調査の概要と分析結果

2.1. アンケート調査の概要

本研究では、オンラインでアンケート調査を実施し、日本で就労している外国人の幸福度について検証する。今回は、台湾人のケースを検証するため、日本在住の台湾人を対象にアンケートを実施した。アンケートは SNS(PTT というサイト^c)の掲示板の上でアンケートを掲載し、回答してもらった。回答期間は 8 月 1 日から 8 月 15 日である。アンケートには、150 人の回答があった。アンケートでは、来日前と来日後のそれぞれについて、幸福度、年収、婚姻状況、子供の人数、健康状態、宗教信仰度について質問した。また、回答者の属性等(性別、年齢、学歴、来日年数、帰国予定の有無、職業、現在の在留資格)についても質問している。アンケート回答および回答者の属性は表 1 に示されている。また、回答者の在留資格と職業の内訳は表 2 と表 3 にそれぞれ要約されている。

^a 近畿大学大学院経済学研究科博士前期課程 2033110001m@kindai.ac.jp

^b 近畿大学経済学部 ssasaki@kindai.ac.jp

^c <http://term.ptt.cc>

表1 アンケート回答および属性の記述統計

質問に対する回答	平均	最小値	最大値	標準偏差
性別 ¹	1.547	1	2	0.499
年齢	31.600	25	45	5.888
来日前既婚ダミー	0.060	0	1	0.238
来日後既婚ダミー	0.273	0	1	0.447
学歴	4.347 ²	2	6	0.784
来日前の子供の人数	0.007	0	1	0.082
来日後の子供の人数	0.147	0	2	0.469
来日前年収	283.333	69.44	1250	261.640
来日後年収	455.667	50	900	231.535
来日年数 ³	1.900	1	4	0.918
来日前幸福度 ⁴	6.627	0	10	1.941
来日後幸福度	6.833	0	10	1.844
帰国予定ありダミー	0.153	0	1	0.361
来日前健康状態 ⁵	3.760	0	5	0.988
来日後健康状態	3.47	0	5	1.060
来日前宗教信仰度合い ⁶	0.947	0	4	1.225
来日後宗教信仰度合い	0.773	0	5	1.094

3. 分析結果

3.1. 在留外国人の幸福度

回答者の来日前と来日後の幸福度の分布は図1に示されている。回答者の幸福度の平均は、来日前には6.62 来日後は6.83と、来日後の方が来日前よりも幸福度は高かった。しかし、その差は有意ではない($p=0.1726$)。

表2 在留資格の割合

高度専門職	技術・人文知識	特定技能	特定活動	留学・研修	身分に基づく 在留資格 ⁷	その他
13(8.67%)	87(58.0%)	2(1.33%)	1(0.67%)	12(8%)	33(22.0%)	2(1.3%)

表3 現在(来日後)の職業の割合

有職者	アルバイト	主婦	無職	学生
126(84.0%)	3(2.00%)	6(4.00%)	3(2.00%)	12(8.00%)

¹ 男性=1, 女性=2

² 小中学校卒=1, 高卒=2, 専門学校あるいは短大卒=3, 大卒=4, 修士院卒=5, 博士院卒=6

³ 1-3年=1, 4-6年=2, 7-10年=3, 10年以上=4

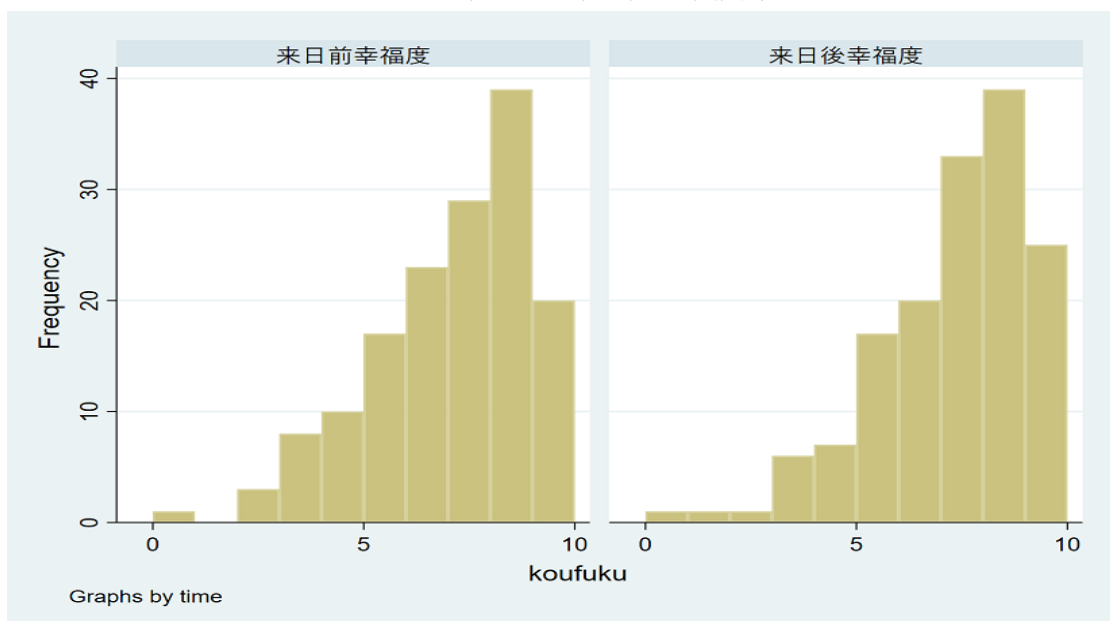
⁴ 非常に不幸=0, …非常に幸福=10

⁵ 非常に悪い=0, …非常に良い=5

⁶ 全く信仰していない=0, …, 熱心に信仰している=5

⁷ 日本人の配偶者など

図1 来日前と来日後の幸福度



3.2 OLS による現在の幸福度についての推定結果

次に、在留外国人労働者の現在の幸福度の決定因を検討するために、従属変数を来日後幸福度とし、回答者の属性（性別、年齢、学歴、職業、在留資格）、経済状況（来日後年収）、家族の状況（来日後既婚ダミー、来日後子供の数）、来日年数、帰国予定の有無、来日後の健康状態、来日後の宗教の信仰度を独立変数として、OLS 推定を行った。その結果は表 4 に示されている。

表4 OLS による推定結果

説明変数	係数	P 値
性別	-0.5714	0.038
年齢	-0.0022	0.932
学歴	-0.0251	0.905
結婚	0.5378	0.164
子供	0.0203	0.958
年収	0.0005	0.500
来日年数	0.2101	0.233
帰国予定あり	-0.9092	0.018
有職者	0.4390	0.616
無職	-0.2892	0.824
バイト	-0.3152	0.789
主婦	-0.6859	0.598

健康状態	0.9118	0.000
宗教信仰	-0.0658	0.616
高度専門ビザ	0.0138	0.980
技術・人文知識ビザ	-0.0024	0.995
特定技能ビザ	-0.6433	0.598
特定活動ビザ	3.0738	0.063
留学・研修ビザ	0.7407	0.470
その他ビザ	-0.5108	0.742
定数項	3.7431	0.029
Observation	150	
Adj R-squared	0.3034	

推定結果から言えることは以下の通りである。性別は負で有意である。女性より男性の方は幸福度が低い。幸福度の性別差に関しては、男性よりも女性の幸福度が高いことは多くの研究で報告されているが、本研究では逆の結果が確認された。また、年齢と学歴も有意ではない。加えて、婚姻状況や子供の人数も有意ではない。既婚者の幸福度が高いという事実は、いくつかの研究で指摘されており（例えば Tsang et al., 2003）、子供の誕生により幸福度は影響を受けることを報告している研究もある（Spanier and Lewis, 1980）が、本研究ではそうした結果を追認することはできなかった。本研究の回答者の中には、子供がいる人あまり多くないので有意ではない結果が得られたと考えられる。その他、年収および来日年数は有意ではないものの、帰国予定ありダミーは負で有意であった。つまり、来日してからの経過年月は幸福度に影響がないが、今後将来にわたって長く日本で就労しようとしている人は、幸福度が高くなることが分かる。職業については、学生ダミーを除外しているため、学生との比較となる。しかし、職業に関する変数はすべて有意ではなく、職種に幸福度は影響しないことがわかる。健康状態は正で有意であり、健康状態が高いほど幸福度が高くなる。また、宗教の信仰度合いは正であるが有意ではない。また、在留資格については、「身分に基づく在留資格」を除外しているため、当該資格とそれ例外の在留資格との比較となる。在留資格のうち、特定活動ビザは正で有意であり、特定活動ビザを持っている人の幸福度は高い。特定活動ビザは、ワーキングホリデー等に従事する人に与えられる在留資格であり、こうした活動を行っている人は、それ以外の活動で日本に滞在する人よりも幸福であることが分かる。

3.4. 回顧パネルデータによる幸福度の分析

本研究では、幸福度、婚姻状況、子供の人数、年収、健康状態、宗教の信仰度合いについて来日前と来日後の両方について質問をしている。こうしたデータから、回顧パネルデータを構築し、固定効果モデルによって推定を行う。固定効果モデルは経済主体ごとに期間の平均からの乖離をとって推定することで、時間を通じて変化しない固有効果を除去することができる。それにより、幸福度の変化が時間を通じて変化する要因にどのように影響を受けるかについて検証する。従属変数を幸福度、独立変数を既婚ダミー、子供の人数、年収、健康状態、宗教の信仰度合いとして固定効果モデルで推定した結果は表 5 に示されている。

表 5 回顧パネルデータ分析結果

説明変数	係数	P 値
------	----	-----

結婚	-0.1634317	0.744
子供の人数	0.5622943	0.215
年収	0.0014574	0.013
健康状態	0.8613551	0.000
宗教の信仰度	0.8417613	0.014
定数項	0.001	0.001
Number of observations	300	
Adj R-squared		
Within	0.3208	
Between	0.0388	
overall	0.0589	

推定結果を見ると、婚姻状況と子供の人数は有意ではないが、年収、健康状態、および宗教の信仰度は正で有意である。OLS による推定では、年収および宗教の信仰度は幸福度に有意な影響を与えることが確認できなかった。しかし、アンケート調査でコントロールされていない様々な個人特性を除去した固定効果モデルにおける推定では、年収が増加するほど幸福度は上昇し、宗教をより熱心に信仰するほど幸福度が上昇することが確認できる。また、健康状態については、OLS による推定と同じように正で有意であることも確認できる。

4. 結論

本研究では、外国人労働者の幸福度の決定因を検証するために、在留台湾人に焦点を当ててアンケート調査を行った。OLS による分析結果では、(1)女性よりも男性の方が幸福度が高い、(2)特定活動ビザを保有している人は、身分に基づく在留資格を保有している人よりも幸福度が高い、(3)健康状態が良い人ほど幸福度が高い、(4)来日してからの年月は幸福度に影響を与えないものの、帰国予定のある人よりも帰国予定のない人の方が幸福度は高いことが確認された。回顧パネルデータの分析では、(1)年収が高い人ほど幸福度が高い、(2)宗教を熱心に信仰する人ほど幸福度が高い、(3)健康状態が良い人ほど幸福度が高いことが確認された。回顧パネルデータの分析結果のうち(1)と(2)は OLS の推定では確認できなかったが、これは OLS の推定では、アンケートでコントロールできなかった個人特性が推定結果にバイアスをもたらした結果であると考えられる。

上記のうち特に着目すべき結果は、来日してからの年月は幸福度に影響を与えないものの、帰国予定のある人よりも帰国予定のない人の方が幸福度は高いという点であろう。天下雑誌(2017)は、海外で生活する台湾人にとって海外生活に順応しづらいことは生活面や人間関係であると指摘しているが、帰国予定のない人は、仕事面だけでなく生活面や人間関係に問題を抱えていないために日本に長く居住しようという意思を持った人だと考えられる。日本における労働者人口の減少に伴って、今後もより多くの外国人労働者が来日するであろうことが予測できる。外国人が日本で安心して仕事を続けていくためには、就労環境や生活環境の改善を通して、彼らの幸福度を高める施策が必要であると言えるだろう。

引用文献

厚生労働省 2020. 「外国人雇用状況の届出状況概要版」
<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000728546.pdf>

Spanier, G. B. and R. A. Lewis, 1980. Marital quality: A review of the seventies. *Journal of Marriage and the Family* 42 (4), 825-839.

Tsang, L. L. W., C. D. H. Harvey, K. A. Duncan and R. Sommer, 2003. The Effects of Children, Dual Eaner Status, Sex Role Traditionlism and Marital Structure on Marital Happiness over Time. *Journal of Family and Economic Issues* 24, 5-26.

天下雜誌, 2017. 在日本工作, 生活, 哪些趨勢不可不知? 箇中甘苦又是什麼?
<https://crossing.cw.com.tw/article/8769>